



お話の学習指導案



教育目標

題名 ・ 田んぼをはたけにしたり こう (イ・ファン)

年齢 ・ 児童(6~9歳)

主題 ・ 目標:じぶんより人のことをたいせつにかんがえた学しゃ、り こう (イ・ファン) のうつくしい心についてきょうみをもつ。
・ 主題:はいりょ

キーワード ・ り こう (イ・ファン)、トサンソウォン、せんウォン、かへい、のうじ、いなさく、はたさく、こめ、チョソン、文官 (ぶんかん)、学しゃ

韓国文化 ・ 目標:イ・ファンのお話をきいて、のうじにきょうみをもつ。
・ 要素:のうじ

韓国語

- ・ 目標:お話をたのしくきいて、かんれんしたことわざをならってみよう。
- ・ 単語: 물 대기 (水をひく)
- ・ 表現: 제 눈에 물 대기 (じぶんの田んぼに水をひく)



口演 活動内容



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、こんにちは！
みなさん、こんにちは。わたしはみなさんにたのしいお話を‘○○○’、
うつくしいお話のおばあちゃんです。



題名 を教える

今日、おばあちゃんがするお話は、だいめい、さっさと出てこい！
"田んぼをはたけにしたり こう(イ・ファン)"です。
韓国(かんこく)はおこめをたべます。こめはイネの実(み)です。イネを田んぼにうえることを田づくりといい、まめやはくさいをはたけにうえることをはたさくといいます。田づくりはきちょうなこめをとることができますが、みずがおおくひつようなので、かんたんにのうじをすることができませんでした。はんたいに、はたさくは水がおおくひつようではありません。りこう(イ・ファン)は田づくりをじゅうぶんにできましたが、わざと田んぼをはたけにしたといいます。どうしてそのようにしたのか、おばあちゃんのお話をきいてみましょうか？



お話の始まりの歌を歌う

"田をはたけにしたり こう(イ・ファン)"のお話の中へしゅっぱつ！
♪ いち にい さん し！ お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。 パンパン～

口演 活動内容



お話を聞かせる

むかしむかし、ちょうせんという国がありました。ちょうせんには本をたくさんよんでかんがえることがすきな、り こうという学しゃがいました。り こうはじぶんよりほかの人をさいしょにかんがえる、やさしいところをもっていました。そのため、おおくの人はり こうをしんじて、したがいました。り こうは学こうをたてて、人びとをおしえました。学こうのなまえはトサンソウォンです。今日、せんウォンさつにはり こうとトサンソウォンがえがかけられています。り こうをずっとおぼえておきたい、人びとのねがいがこめられているからです。

り こうがこきょうであるアンドンで、いっしょうけんめいべんきょうしているときでした。村の人びとはおおくが田づくりをして、くらしていました。田づくりをしようすると、水がおおくひつようでした。人びとは小川の水やちか水から水をひっぱってきて、田んぼになみなみと水をためました。そのため、田づくりには田に水をひくことがとてもじゅうようでした。り こうがすんでいる村のまえにも小川の水がありました。村の人びとはすべてじぶんの田んぼに水をひきたがりました。しかし、水べからとおくはなれている田んぼまで水をひいてくるには、小川の水がたりませんでした。田に水をひいてこられなくて、いなをしゅうかくできないたみたちもいました。

そんなある日のことでした。り こうはへやの中で本をよんでいました。そのとき、そとからめしつかいたちがする話ごえをききました。

“わたしたちのしゅじんの田んぼは小川のほとりにあるから、田づくりするのにほんとうにいい。水をひいてくるのがかんたんじゃないか。”

“そうだよ。かんばつにはいってもびくもしない。しかし、村の人びとの中には水がたりなくて、のうじがたいへんな人たちもいるよ。”

口演 活動内容



お話を聞かせる

“たしかに、わたしたちの田んぼに水をひいてきたあとに、村の人びととわける水がたりないのだよな。”

り こうはめしつかいのかいわをきいて、かんがえました。

“あ！わたしたちの田んぼに小川の水をすべてつかうからなのか。ほかにいいほうほうはないだろうか？”

り こうはながいあいだまよって、めしつかいをよびました。

“わたしたちの田んぼをはたけにかえて、はたさくをするようにしなさい。”

めしつかいはとてもおどろきました。

“はい？こめをたくさんつくるには、田んぼににいなをうえなければなりません。はたけにはせいぜい、まめややさいだけをうえることができます。ひがいがとても大きいです。いったいどうしてそのようにされるのですか？”

り こうはわらいながらこたえました。

“ははは、わたしははたさくだけしてもたべていけるが、村の人びとの田づくりをだいなしにしては、どのようにくらしていけるのか？はたさくは水があまりいらないので、すくない水でのうじをするようにしなさい。のこった水をほかの人がつかったら、まんべんなくこくもつをとることができるではないか。”

めしつかいたちはり こうのことばにうなずき、おもいました。

“やはり、ところが広いかたである。”

めしつかいはやっとり こうのふかいいみをしり、かんたんして、り こうのいうとおり、田んぼをはたけにしました。めしつかいがいっしょうけんめいはたさくをして、はたけはみがふさふさとつきました。り こうのはいりよで、村の人びとは田んぼに水をよくひくことができました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

そしてまえよりおおくのこめをしょうかくしました。村の人びとはり こうのあたたかいところにかんしゃして、よりそんけいするようになりました。

口演 活動内容



韓国文化, 韓国語を紹介する

みなさん、おばあちゃんがしたお話をよくききましたか？

田づくりでじゅうようなことはなにか、はなしてみましようか？そうですね。田んぼに水をひくことですね。のうふたちはみな、じぶんの田んぼに水をひきたがりました。あるのうふたちはほかの人たちをかんがえないで、じぶんの田んぼにだけ水をひいたりもしました。このようなとき、“自分の田んぼに水をひく”とひょうげんします。”じぶんの田んぼに水をひく”はじぶんだけをかながえる人につかうことわざです。韓国（かんこく）はむかしからのうじをしてくらしてきたので、のうじとかんれんしたことわざがおおいです。どんなことわざがあるのか、りょうしんといっしょにさがしてみましよう。

みなさん、わたしたちはのうじをして、さくもつをしゅうかくします。それでごはんとおかずをつくり、たべてくらしますね。そのため、のうじはとてもじゅうようなしごとです。かんこくの人びとはどんなのうじをして、くらしましたか？

そうですね。水がたくさんひつような田づくりと水がすくなくてすむはたさくをしました。田んぼにはいねをうえ、はたにはまめややさいをうえました。のうじがうまくいくと、村ではおいわいをしたりもしました。

のうじぶんかにきょうみがあるおともだちは、‘どらんどらん お話ホームページ’でくわしいないようをしらべてみてね！

口演 活動内容



お話を整理する

みなさん、おばあちゃんと"田んぼをはたけにしたり こう(イ・ファン)"のお話をまとめてみましょう。

り こう(イ・ファン)はじぶんの田んぼをはたけにかえました。り こう(イ・ファン)の田んぼに水をひくと、小川の水がふそくするので、村の人びとが田づくりをすることがむずかしかったのです。り こう(イ・ファン)はほかの人のこんなんをじぶんのことのようにかんがえて、かいけつしようとどりよくしました。わたしたちもり こう(イ・ファン)のように、しゅういの人をはいりよしてくらして行きましょう。みなさんもいつでもたすけをもらうことができます。だから、たすけがひつような人びとをかんがえるすてきな人になってほしいです。しゅういの人びとに“なにかてつだいましょうか?”と言って、さきに手をさしのべてみましょう。



お話のあとのうたをうたう

そしたら、お話のおわりのうたをいっしょにうたいながら、おばあちゃんとあいさつします。お話のおわりのうた、はじまり！

♪ いち にい さん し！お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、ごあいさつ！

みなさん、つぎのうつくしいお話のおばあちゃんであいましょう。

さようなら！